

第 181 回「木を勉強する会（木勉会）」開催のご案内

木勉会担当幹事 岩手県立大学 内田信平
TEL 019-694-2900 FAX 019-694-2901
E メール：s-uchida@iwate-pu.ac.jp

前回の第 180 回木勉会（9 月 28 日）は、「二和木材の取り組み」と題して（有）二和木材の小笠原清貴氏よりご講演いただき、同社矢巾工場の見学を行いました。平成 23 年 10 月 7 日発行の岩手林業新報に掲載されておりますのでご参照下さい。

さて、第 181 回木勉会は、岩手大学および岩手・木質バイオマス研究会との共催による下記セミナーを行います。東日本大震災により岩手県内で発生したがれきは総量で約 435 万トン、うち、柱材などの比較的良質な廃木材は約 52 万トンと推計されています。これらの廃木材の一部は、再資源化されて木質ボード（復興ボード）の原料として利用され、また、ボイラ燃料として利用されていますが、大部分は単に焼却処理されると考えられます。

これらの廃木材を、木質バイオマスエネルギーとして利用することを検討していくべきではないでしょうか。工場などの産業施設での熱利用に加え、今後整備が進められる公共施設や集合住宅、住宅団地などに、木質バイオマスを燃料とした小規模な地域熱供給システムを導入することも有望だと考えられます。震災廃木材の燃料利用は、近い将来、間伐材や林地残材による燃料にバトンタッチするまで、その“呼び水”として役立つ可能性があります。

このセミナーでは、木質バイオマスによる海外の地域熱供給の事例を紹介し、岩手県沿岸地域での今後の木質バイオマスエネルギー利用について、参加者の皆様とともに考えてみたいと思います。地域林業の活性化と循環型社会の構築に向けて、最新の情報を共有しましょう。積極的なご参加をお待ちしております。

～～～ 記 ～～～

木質バイオマスによる地域熱供給セミナー ～震災がれきを呼び水に、林地残材の活用を！～

主 催： 岩手大学「がれき廃木材の再資源化システムの確立と木質バイオマス社会構築」活動
（三井物産環境基金 2011 年度東日本大震災復興助成）
共 催： 木を勉強する会（第 181 回木勉会）、岩手・木質バイオマス研究会
後 援： 岩手県、宮古市、岩手県立大学（予定）
日 時： 平成 23 年 12 月 2 日（金）13：30～16：00（受付 13：00 より）
会 場： 宮古市民総合体育館（シーアリーナ）4 階「研修室 1」（宮古市小山田 2 丁目 1-1）
参加費： 無料
申込期限： 平成 23 年 11 月 30 日（水）
申込方法： 氏名、勤務先の名称・住所をご記入のうえ、メールまたは FAX で下記までお申込ください。
申 込 先： 木勉会事務局（岩手林業新報社内）：ringyo@rose.ocn.ne.jp Fax: 019-624-1205

《開会挨拶・趣旨説明》 関野登（主催者代表・岩手大学農学部）

《基調講演》 13：40～15：00

「木質バイオマスエネルギーによる地域活性化の可能性」（40 分）

岩手大学農学部 助教 伊藤幸男

「木質バイオマスを利用した地域熱供給～オーストリアの事例紹介（仮）」（40 分）

東北芸術工科大学 准教授 三浦秀一

《フリーディスカッション》 15：10～16：00

講演の後、会場の参加者を交えて、自由にディスカッションを行います。

* 本セミナーの翌日（12 月 3 日（土））午後には、同じ会場にて、「宮古発・復興住宅フォーラム～地元の街、地元の産業に再び活気を！～」が開催されます。こちらもぜひご参加ください。